

男女共同参画だより

平成 29 年 1 1 月号

No.73 市民協働課男女共同参画係

「ジェンダー・ギャップ指数2017」を公表

ダボス会議を主催する「世界経済フォーラム」は 11 月 2 日、男女格差の度合いを示す「ジェンダーギャップ指数」の報告書（2017 年版）を発表しました。

日本は 144 カ国中 114 位となり、過去最低だった前年の 111 位からさらに後退してしまいました。昨年は女性として初の東京都知事が誕生しましたが、世界的にみると女性の政治への参加についてはまだまだ遅れをとっているようです。

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.878
2	ノルウェー	0.830
3	フィンランド	0.823
4	ルワンダ	0.822
5	スウェーデン	0.816
6	ニカラグア	0.814
7	スロヴェニア	0.805
8	アイルランド	0.794
9	ニュージーランド	0.791
10	フィリピン	0.790
11	フランス	0.778
12	ドイツ	0.778
15	イギリス	0.770
16	カナダ	0.769
:		
49	アメリカ	0.718
:		
100	中国	0.674
:		
114	日本	0.657
:		
118	韓国	0.650
:		
144	イエメン	0.516

日本の指数を分野ごとにみると「政治参画」について前年の 103 位から 123 位と大きく順位を下げ、総合順位に大きな影響を与えました。

「政治参画」を項目別にみると、「国会議員の男女比」が 129 位と、前年の 122 位から順位を下げました。「閣僚の男女比」も同じく 50 位から 88 位に順位を下げる結果となりました。

「経済参画」は、前年の 118 位から 114 位と若干改善し、項目別にみると「女性の労働力比率」（79 位→79 位）「同種業務での給与格差」（58 位→52 位）「勤労所得の男女比」（100 位→100 位）「幹部・管理職での男女比」（113 位→116 位）「専門職・技術職での男女比」（101 位→101 位）のいずれも、指数自体は改善されました。しかし、他国の指標も改善が進んだこともあり、順位に関しては、「給与格差」以外は前年並みにとどまるか、下落しました。

「教育」の分野は、76 位で、項目別でみると、初等・中等教育の在学率、識字率はいずれも指数が「1」で「男女平等」と評価されました。一方、高等教育の在学率は、ここ数年で改善されてきてはいるものの、101 位にとどまっています。

「健康」の分野は「出生時の男女比率」と「平均寿命」のいずれの項目も 1 位でした。

※ジェンダー・ギャップ指数とは・・・各国の社会進出における男女格差を示す指標のこと。世界経済フォーラム（WEF）が毎年公表しているもので、経済活動や政治への参画度、教育水準、出生率や健康寿命などから算出されている。スコアが「1」に近いほど格差が少ない。

